

2020年8月 じゃおサロン予定（特別オンライン開催）

日時： 8月29日（土） 15:00～17:00

講師の日下部先生のご都合で30日（日）から29日（土）に開催日が変わりました。ご案内したばかりの変更で申し訳ありませんが、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

コロナ禍で中止になっておりました「じゃおサロン」ですが、流行りのオンラインで開催することになりました。

じゃおクラブにとっては初の試みですが、講師の方のご厚意・ご協力が得られたことに加え、コロナ禍が続く状況において、じゃおサロンを開催する一つの手段になると考え、まずはやってみようということになりました。

講師： 日下部晃志氏（松下政経塾 研修局人材開発部 担当部長/第25期卒塾生）

テーマ： 日本の安全と私たちの安心 ～治に居て乱を忘れず～

講演内容・講師略歴につきましては7月のじゃおニュースに掲載済みですので割愛します。

※ オンライン開催ですので、参加者はご自身のパソコンなどを使って参加してください。

なお、オンライン開催についての詳細は、別途Eメールにて案内いたします。

参加にはパソコンなどが必要です。お持ちでない方は参加できませんが、悪しからずご了解ください。

2020年次々回 じゃおサロン予告（オンライン開催）

講師： 松田 卓也（まつだ たくや）氏 神戸大学名誉教授、宇宙物理学者で元日本天文学会会長

テーマ： 「コロナとシンギュラリティ」

日時： 未定

松田先生は宇宙物理で著名な研究者ですが、大学退官後は物理だけでなくシンギュラリティ問題：人工知能が人間の知能を超える特異点（シンギュラリティ）で、著作、講演など積極的に発言されています。先生のご紹介、関連記事はネットでもおおくありますが、Wikipediaにも載っていますのでご覧ください。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%BE%E7%94%B0%E5%8D%93%E4%B9%9F>

日時は現在調整中で後日Eメールにてご案内します。先生には京都からオンラインでご講演いただく予定です。

事務局だより

1. 会員動向（2020年7月1日現在）

退会者 谷口 宏氏（多摩・田園）

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
39	37	32	28	136（Eグループ会員：119名）

2. 運営委員会報告

運営委員会は7月26日（日）にオルタ館で実施予定でしたがコロナ禍のため、初めてZoomによるオンライン形式で実施しました。協議事項は以下の通りです。

1) 今後の運営委員会の開催形式について

コロナ禍が沈静化するまでは当面Zoomによるオンライン形式で行います。また、従来監事の方は出席されていませんでしたが、今後は原則として出席して頂くことになりました。ただし、議決権はございません。

2) 今後のじゃおサロンの開催形式について

当面オルタ館での開催は困難と思われるので8月末についてはZoomによるオンライン形式で行うこととします。9月については県央で講師の選定等検討した後、運営委員会に報告・検討することになりました。

3) 運営委員会交通費支給に関わる内規について

先般の通常総会で運営委員に運営委員会出席の際に各地域の拠点駅からオルタ館のある新横浜駅までの交通費を支払うことが承認されましたが、年度末に出席日数に応じて各人にまとめて支払うことになりました。当然、オンライン会議の場合は除きます。

4) HP サークルメンバーへの交通費支給の可否について

先般の通常総会でHPサークル委員に対しても交通費を支払って欲しいという要望があり、HPサークル委員も本部業務を行っているので支払うこととしました。支給額等については運営委員に倣います。

5) クラブ創立30周年記念行事について

現時点で来年のコロナ感染状況を見通すことが困難なので、次回以降に検討することになりました。

6) Zoom 有料契約の可否について

現在はZoomアプリの無料版を使用していますが、使用可能時間が40分（現在はコロナ禍のためサービスで時間制限はない）など制約が多いので、有料版に切り替えたいという提案があり、コストが月額2,000円、年間24,000円ということなので契約することにしました。

7) じゃおクラブHPへの不正アクセスについて

6月24日3時18分、3回にわたって不正アクセスがありました。セキュリティプラグインがロックアウトして問題はありませんでした。今後も同様の不正アクセスが起こる可能性があります。今回侵入を防止できたことからこの状態を維持することにしました。

次回の運営委員会は9月27日（日）10時～12時、オンライン形式で開催する予定です。

なお、当分の間、健康体操とじゃおサロン後の懇親会は行いません。

私の終活

湘南 大野 耕一

私は、この8月14日で満85歳になります。そろそろ終活のことを考えなければと思っています。終活は何を基準に考えたらいいのでしょうか。私は終の棲家をどこにするかを基準に考えてみました。それによって、何を残すかや、残すものの量が違うからです。現在は一戸建ての自宅ですが、夫婦2人が動けなくなり、誰かの助けを借りなければならなくなった時には、終の棲家は介護つき高齢者住宅か老人ホームを考えています。そのことを念頭において、終活を考えてみました。

終活には3つのことが考えられます。まず、第一は、「活動」の終活です。

1. 活動の終活

勤務先で定年退職する直前まで、私は管理者研修の仕事をしていました。そのために定年後も一般企業や地方自治体などで、定年後のライフデザイン、老い支度ノート（エンディングノート）、高齢者男性の地域活動などをテーマに、講演の講師を勤めていました。

とくに長く続け、回数も多かったのは、定年後に勤務していた一般社団法人の行っている「三鷹ネットワーク大学講座」です。一般社団法人が平成18年（2006年）に三鷹市と提携してJR中央線・三鷹駅前の三鷹ネットワーク大学で、社会人を対象に月1回開催する講座を企画し、私自身も講師を勤めていました。この講座は現在も継続されていますが、私は75歳になった平成22年（2010年）に講師を引退しています。

次は旅行で、ヨーロッパ旅行は私の長年の夢でした。平成5年（1993年）に勤務先を早期定年退職して関連会社に再雇用されたのを機に、「オーストリア、音楽の旅」を実現しました。その後2年おきに、「イタリア、こころの旅」、「フランス、美術の旅」、「ドイツ、再び音楽の旅」、「スイス、大自然の旅」と、5回の海外旅行を体験しています。海外旅行は60代のうちにとかねがね思っていたので、平成16年（2004年）に68歳で完結できたのは幸いでした。

そして70歳代は国内旅行をと思っていたのですが、家内が骨粗鬆症を患い、私も腰の骨を痛めるなどして、近くの熱海や箱根などの温泉療養をする程度で、若い頃に行った国内旅行以外は、ほとんど行っておりません。旅行は、これで終りと思っています。

3番目はクルマです。運転免許を昭和48年（1973年）の37歳の時に取得して46年間運転してきましたが、最近頻発する高齢者による運転死亡事故を見て、令和元年（2019年）7月、83歳で運転免許証を返納しました。

第4は、男声合唱です。大学時代にグリークラブに所属し、四部合唱のバスのパートを担当しました。あれから、何年経ったのでしょうか。じゃおクラブの中に男声合唱団「じゃおグリークラブ」ができ、平成24年（2012年）の発足当初から参加しました。今では、横浜のみなとみらい大ホールで行われる神奈川県合唱連盟主催の平均年齢60歳以上の団体の合唱祭「ヴィサン《人生百歳》ジョイント・コーラスフェスティバル」で、3年連続して“エフォル賞”（フランス語で「努力」の意）を受賞するほどのコーラスグループに成長しました。しかし、家内の介護や家事、日常の雑用などに追われて月2回の練習に足を運ぶのが辛くなり、平成28年（2016年）に80歳で退会いたしました。

第5は、俳句です。じゃお湘南の「四木会」は平成12年（2000年）4月に発足し、私は設立当初から参加していますので、今年の4月で満20年になりました。句会は男の居場所として居心地がよい、まさに仲間同士が心の絆で結ばれている感じなので、俳句はおそらく未長く続くでしょう。

第6の水彩画を始めたのは、満70歳の古稀の時でした。平成18年（2006年）5月、じゃおクラブの水彩画グループ「淡水会」に入会したのがキッカケです。月2回、屋外の風景と室内での静物をスケッチしていました。この淡水会が平成24年（2012年）5月にじゃおクラブから分離されたのを機に、私は退会しました。

6年間のブランクがありましたが、平成30年（2018年）4月に、平塚駅の駅ビル・ラスカ平塚の中に文化教室「キノさんの水彩画」のあることを知って入会し、水彩画を再開しました。月1回の授業を楽しんでいますので、おそらくこの水彩画もまだまだ続くと思います。

第7のボランティアですが、じゃおクラブの活動は、ほとんどがボランティア活動なのですが、顕著なものをいくつかあげてみます。

じゃお湘南では、平成7年（1995年）から海岸清掃を始めました。かながわ海岸美化財団が音頭を取って、年2回、鶴沼海岸から始めて辻堂海岸など、何ヵ所かを手掛けています。午前10時から2時間程度、他の団体と一緒にやって行いますが、私が参加したのは平成21年（2009年）からです。3～4年続いた時には団体が多過ぎて、皆さん海岸散歩をしているようだったので、平成25年（2013年）以降は参加していません。

つぎは、私たちが料理を作り、一人暮らしの高齢者の方々に食事を提供する高齢者食事会です。地域福祉団体「助っ人クラブ」と提携して平成8年（1996年）11月から、藤沢市の明治公民館で始めました。

また、平成17年（2005年）11月からは、横浜のボランティア団体の「ギターアンサンブル・ハーバーライト」と協力して、茅ヶ崎の鶴嶺公民館で高齢者食事会を年1回開催しました。これは11年続きましたが、こちらの高齢化と人手不足で、平成28年（2016年）11月にやむなく中止しました。

2. モノの終活

終活の第二は「モノ」です。その筆頭は何と言っても一番場所をとる書籍でしょう。家には大小3つの本箱がありますが、そこにも入り切らず、美術全集などは床にそのまま積んであります。

平成30年（2018年）、82歳の時に第1回の整理を行いました。私の出身大学には「大学古本募金」という制度があります。これは、不要な書籍やCD（コンパクト・ディスク）などの売却代金を大学の教育・研究に役立つ寄付制度で、大学に本の処分を依頼すると古本業者が買い取り、その代金を大学にそのまま寄付できる制度です。

第1回目の時はこの制度を活用して、経済、人事関係の専門書など段ボール6箱分を整理し、大した金額ではありませんが、寄付させていただきました。第2回目は、2～3年後に、小説や随筆、美術全集などの大部分を整理しようと思っています。

つぎは、レコード・ビデオテープ・CDなどです。レコードはクラシック音楽を中心に随分蒐集し、レコードボックス3箱にぎっしり詰まっているので、何枚くらいになるのでしょうか。同じものはCDでも持っているので、近々レコードはすべて整理します。

ビデオテープもクラシック音楽中心ですが、そのほかに、いろいろな行事をビデオテープ・レコーダーで撮ったテープもあります。50本程度ですので、これらはすべて整理します。CDもクラシック音楽が中心ですが、クルマの中で聴くこともあったので、そのほかに歌謡曲もあります。これらは現在でも聴いていますので、ほとんどは保管したままにしておくつもりです。

3番目は写真（アルバム）で、これは手つかずの状態です。何十冊かのアルバムと段ボール2箱に入った印画紙のままの写真があります。これらをどう整理していくかが、今後の課題でしょう。いずれにしても、3分の1くらいにはしようと思っています。

3. 心の終活

最後の三つ目は、「心」の終活です。人間は、人生の旅で体験した様々な出会いと、その時々を選択した転機によって大きく形作られます。どこの大学に入学しようか、文科系にしようか、理科系にしようか、どこの会社に就職しようか、営業部門に行こうか、人事部門にしようか、誰と結婚しようか、等々です。

こうして、80年以上の人生を経験して、いま、人生の終盤を迎え、自分らしい死と出会うために、残された人生をどう生きればよいかを考えています。最期に、「実り多い豊かな人生だった。皆さん、有難う」と言って、安らかな眠りにつける自分になりたいと思い、常日頃から心掛けています。

不要不急の外出自粛

県央 大場 幸雄

新型コロナウイルス感染症対策で2月中旬から「不要不急」の「外出自粛」生活をして半年が過ぎようとしています。

その間、モバイル Suica の鉄道利用履歴をみると神奈川県緊急事態宣言解除後に横浜方面への1回のみ。Google カレンダー（スマホ）も「じゃおクラブ」予定の他、中止を示す×印が並び今後の予定も“密”にならない農園と“徹底した感染対策”を行って再開がされた「陶芸クラブ」での作陶と関係団体役員会など一部だけで空欄が多いままです。8月末に北海道で姉の法事が行われるが、それもどうなるか思案に暮れています。

私の活動が定期的な持病での通院以外すべてが「不要不急」なのでは？と。

「不要不急」＝どうしても必要というわけでもなく、急いでする必要もないこと。（広辞苑第六版より引用）

「自粛」＝自分で自分の行いをつつしむこと。（広辞苑第六版より引用）

「必要でもない、急ぎでもない」どんな用事でも他人にはどうでもいいことでも、人によっては大事だったり、急ぎだったりすると思うので自分の条件の中で、自分で判断して行動するしかないのでは。

その時に、当日の体調を考えてイベントに参加する。なるべく公共交通機関の利用を避け会場への出入時のアルコール消毒、マスク着用、人と人との間隔を空ける、窓を開けて短時間で用事をすませる。あるいはオンライン会議の活用（じゃお HP サークルも Zoom で実施中）をするなど「新しい生活様式」を心掛けていかなければと考えます。ともかく「収束」されることを待ち望んでいます。



陶芸再開後の作品「植木鉢」

雑 感

ベイサイド 石橋 忠雄

今年の2月にベイサイドに仲間入りをいたしました。

“じゃお”というグループがあることは数年前から知っていたのですが、私の知っていた“じゃお”とは“じゃおグリークラブ”のことだったのです。

昨年秋まで在籍して唄っていた横浜泉区の男声合唱団が団員の高齢化や病気により解散せざるを得ない状況になってしまいました。

混声合唱団はいくつかあったのですが、男声合唱を続けたいと模索していたところ先生が同系であったため発表会で何回か“じゃおグリークラブ”と一緒にこの“じゃお”を知っていました。

結果として昨年12月に先生の紹介で“じゃおグリークラブ”に入会したところ“じゃおクラブ”という上部組織があって合唱団はその一部組織であり、“じゃおクラブ”は地域を4つに分けて県下及び多摩地区にまたがる大きな組織・団体であることに驚いた。

グリークラブに入ったら“じゃおクラブ”に入った方が良いと誘われ2月に入会したのですが、直ぐに新型コロナウイルス禍に見まわれ、ステイホームをベースとした生活パターンに入ってしまう、各種行事が中止になっていることは既知のとおりですが、合唱団は特に3密そのもので、集うことも・唄うことも出来ず、練習は中止の状態となってしまいました。

最近では発声練習もちゃんと出来ず、声も出にくくなっているのが実情です。

私事ですが、仕事（プラント建設）の仲間です。昔から作っているグループがあり結成後40年余りになるがメンバー（30数名）もほとんど変わらず定期的に集い・旅行し・飲むなどを続けてきたのですが、今後どう維持・継続させるか大きな悩みとなっています。

当“じゃおクラブ”も同じ問題の解決が必要な訳で、世界中で開発中のワクチン・対応薬が日本で使えるものがいつ出来るのか、また直近で政府・自治体が揉めているGo-Toキャンペーンをどうするのか、その結果更に感染者が増大するのか？

当ニュースが発刊時点でどうなっているのか、日々見通せず不安に思うのは私だけではないでしょうし、これからは更に“ウィズコロナ”をどう出来るのか頑張るしかありませんね!!

4回目のオンライン品評会～じゃおグラファーズ～

今年はコロナ禍がグラファーズの活動にも大きく影を落としています。もともと、グラファーズの活動は月に1回、メンバーが揃って出かける撮影会と、その翌週に行う品評会が主体です。仲間が同じ場所へ揃って出かけることで、その人ならではの視点や考え方の作品を見ることができます。

撮影会と品評会は、2009年7月の第1回以来、10年以上、109回にわたって続いてきました。ところが今年には2月に神代植物公園へ行ったきりで、3月、4月、5月、6月と続けて中止にせざるを得ませんでした。このような事情から、自粛が緩和された7月は、久々の撮影会を開催しようと意気込んでいました。会場は勝手知ったる町田ダリア園です。開催したい一心で10日前から長期予報とにらめっこ。しかし、梅雨前線の停滞による悪天候には勝てず、やむを得ず中止しました。



7月14日には、度重なる撮影会中止にもめげずオンライン品評会を開催しました。約束の時間のちょっと前に、それぞれが自宅でパソコンの前に座り、準備を整えます。10分ぐらい前になると、メンバーが次々とパソコンの画面に登場。いよいよオンライン品評会の始まりです。もともとグラファーズのメンバーはデジタルカメラやパソコンの扱いには慣れていますが、オンライン品評会も4回目ともなると、パソコンの操作にも慣れ、違和感もありません。撮影会が中止だったので、メンバーはそれぞれ過去作品を持ち寄りました。予め決めた順に、自分の作品一つひとつについて説明し、それに対してお互いに論評を加えます。こうして2時間、構図やピント、作品の狙いなど真面目に話し合いました。

品評会も終盤にさしかかり、今後の予定を話し合う時間になりました。感染拡大が続き、予測が立たない上、移動時の三密を避ける必要があり、「現状が続く」「長期の予定は決めない」「近隣にする」「自己判断で参加する」「急な中止もある」など、様々な開催条件を確認した上で、8月の撮影会は、屋外撮影であることや電車でアクセスできる点を考慮して昭和記念公園で開催すると決めました。難しい判断ですが、撮影を行わないことには『写真を撮る』というグラファーズの原点が失われてしまうことも考慮しました。

さて、品評会が終わった後は、誰からともなく「このまま飲もうよ」と言い出し、オンライン飲み会に突入です。この日は話し合いに時間がかかったので、1時間ちょっとの飲み会でしたが楽しく過ごすことができました。なかなか顔を合わせることができない日々が続きますが、オンライン飲み会を重ねていると、お互いの近況もわかります。お酌やおつまみの交換はできませんが……。

写真は2017年10月3日の町田ダリア園でのグラファーズ撮影会で撮影したものです。この時は晴天に恵まれました。

今月のグラファーズの作品をホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

<https://jaoclub.com/tamaden/gallery/>

(多摩・田園 竹内 純一 記・写真)